2026 年 11 月 12 日
シチズン時計株式会社

2026 年度 第２四半期（中間期）決算説明会　主な質疑応答（要旨）

日時　　：2026 年 11 月 12 日（木）16 時 40 分～17 時 40 分
当社出席者：代表取締役社長 大治良高、専務取締役 古川敏之、取締役 小林啓一

主な質疑応答：

【全体】

Q)　米国追加関税の還付について。下期に営業利益に計上見込みの金額は。

A)　第２四半期に米国追加関税の還付金 39 億円を受領し、このうち 36 億円を売上原価の減額として認識した。残りの約３億円は在庫に含まれており、販売の進捗に伴って営業利益に計上される見込みで、今回の上方修正後の業績予想に織り込んでいる。

【時計事業】

Q)　第２四半期の業績が想定を上回った要因と、下期に向けた好調の持続性について。

A)　各地域とも想定を上回る増収となり、特に主力の北米は約 30%増と想定を大きく上回った。北米では、「シチズン」、「ブローバ」ブランドともに、為替影響を除く販売単価と販売数量がそれぞれ 10%半ば程度増加し、高付加価値モデルの出荷増も収益性向上に寄与した。数量増の背景には、若年層とレディース向けの取り組みの進展があり、百貨店など主要流通のセルスルーも順調に推移している。下期も完成品、ムーブメントともに上期の傾向が続くと見ている。

Q)　ムーブメントの販売動向と生産及び供給面の見通しについて。

A)　ムーブメントの売上高は、第２四半期で前年同期比２割弱、上期で同約２割増となった。機械式に加え、アナログクオーツムーブメントも順調に伸び、平均販売単価は１割弱上昇した。需要増により生産はタイトになっているが、現時点で販売に大きな支障はない。現中期経営計画の開始時から機械式ムーブメントの生産能力増強と増産体制整備を進めており、今後も需要動向を見ながら、完成品向けと外販向けの生産のバランスを取っていく。

【工作機械事業】

Q)　下期の売上計画と今後の増産対応について。

A)　第１四半期から第２四半期にかけて、各製造拠点の生産配分を最適化し、全体の効率化によって一定の増産を実現した。特に需給が逼迫しているプローブピン加工用の小型機「R シリーズ」は、2028 年３月までの納品分の受注が確定しており、現在は受注を一時調整しているが、年明けから生産能力を約５割増強する計画であり、増強目途が立った段階で受注を再開する予定。

以上